このページは、直接入力はできません。そのまま見るか印刷して使ってね!!

おもしろ国語 ⑪

音読達人への道！

国語の教科書に限らず、学校では声に出して教科書を読むことが多いですよね。声に出すことで、①目で見る②頭で理解する③声に出す④耳から聞くと沢山のステップをふむので、音読はとても大事だと言われています。だから、毎日のように宿題になっていることもあります。でも、上手に読めないと嫌になってしまいますよね。今回は、上手に読めるようになる秘密を考えてみます。

① よい姿勢。よい姿勢になると、よい声がでます。

・体の真ん中に教科書をもちます。

・背すじをぴんとのばします。

・立つときは、足を少し（肩幅よりやや狭いぐらい）開きましょう。

② 短くて好きな文章を読むことから始めます。

楽しくないと意欲はわきません。一分程度で読めてしまう分量で、しかも好きな文章から挑戦してください。（一分で読めるのは、原稿用紙一枚より短いです）

③ 言葉のまとまりはとちゅうできらないように読みます。

（例）ア 一郎の／家に／おかしな／はがきが／届きました。

イ 一郎の家に／おかしなはがきが／届きました。

始めは、アから、少し慣れたら、イのように読んでみましょう。実は、慣れてくると、皆さんの目は、声に出している部分より先を見ています。目も読むことに慣れてくるのでしょうね。

また、慣れるまでは、読点（マル）は、二拍休み。句点（テン）は一拍休みなどを取り入れるのもいいです。

読み間違えたり、つまったりしたときは、その部分だけ繰り返し練習しましょう。自分で納得できるように読めてから次を読むようにします。同じ文を三回読むと大半の人がすらすら読めるようです。長い文を繰り返し読むのは大変。

でも、間違えたところだけなら大丈夫ですよね。少しだけがんばってみてください。

（お家の方や学校の先生がお読みでしたら、ここが大切です。成功を体験してから読み終わるようにしてください。）

④ ページをめくるときは、めくる直前の言葉を少し覚えておいて、覚えている言葉を 読んでいるうちに次のページをめくります。変なところで文が切れずに、なめらかに読めます。

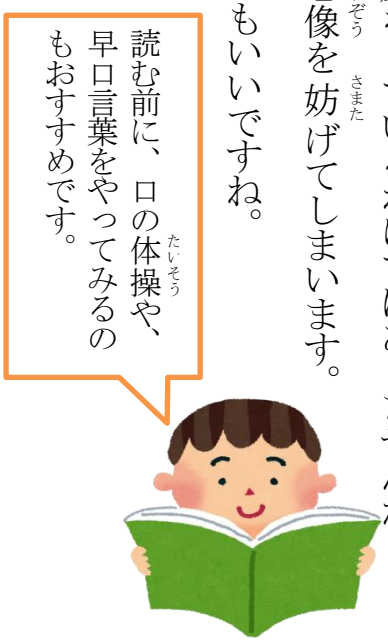
【ここまできたら、すらすらとは読めるようになっているはずですね。】

⑤ 自分の声は自然に耳に入ってきますが、読み手が文字を目で追うことに集中している間は、聞き手を意識できていません。間をとったり、ゆっくり読んだりして、聞き手が、聞いたことを頭の中でイメージできるように意識してみましょう。

いきなりはできませんから、読み始める前に音読のための記号を 文章の横に書き加えることも効果的です。

＊声の大きさ（大きい声、小さい声）、速さ（ゆっくり、早く）間の取り方、高低などがよく使われます。）

⑥ 聞き手がイメージできるように読むことは、なかなかむつかしいです。物語などは、登場人物の心情に合わせて驚いたり、悲しんだり、喜んだりと感情豊かに表現することも可能です。けれども劇をしているわけではありませんから、過剰になってしまうと聞き手の自由な想像を妨げてしまいます。

素敵な音読を聞いて真似をしてみるのもいいですね。

聞きながら自分の口を動かしてみると速さの加減もわかります。